

春曉外記怎會通住

No.158 春

「小金井日記」に驚くべき記述を発見

—エリーゼ来日事件の

新証拠となりうるか—

林 尚孝

一八八八(明治二)年、四年間のドイツ留学から帰国した森林太郎(以後鷗外と記す)を訪ねて、若いドイツ女性が九月一二日に来日し、一〇月一七日に離日した。この事件は「エリーゼ来日事件」として知られているが、彼女の来日目的などを始め鷗外との関わりについて十分納得できる説明はなされていない。

筆者らは、彼女は鷗外と結婚することを打ち合わせて来日したものと考えた。さらに、帰国にいたる過程で、鷗外は軍医を辞する覚悟を固めたのではないかという仮説を提出している(1)(2)。

拙著を刊行したあと、「小金井良精日記」の原本探しを開始した。これまで発表されている「小金井日記」について二つの重要な情報が欠けていると考えたからであった。第一に、一〇月五日の「午後築地二到」という記述は文章として完結しておらず、奇妙に感じられる。第二に、四日の「午十二時教室ヲ出テ、築地西洋軒二到ル林子ノ手紙ヲ持參ス事敗ル、直ニ帰宅」という記述の手紙についてである。

五日の記事「午後築地二到」という文章からは、何か異常な事件が発生したというニュアンスが強く感じられる。鷗外本人が直接会うこと

なく、来日前に話しあった結婚の約束とは違つた内容の手紙を第三者の小金井に託した。エリーゼは激怒し、小金井は「事敗ル、直ニ帰宅」したことに関係するものと思われる。

この手紙を鷗外がいつ書き、それをいつ小金井に渡したのだろうかという疑問にとらわれた。それを確かめるには、これまで発表されている星新一(3)や長谷川泉(4)の記述によるのではなく、原本に当たる必要があると考えた。星新一は、「小金井日記」の一部が東大医学部解剖学教室に保存されていたと書いている。

東大の解剖学教室に当たつてみようとした。

何度も無駄足をふんだあと、二〇〇五年八月二三日、東大医学部の竹田扇助教授によようやく面会することができ、快く協力して下さることになつた。あいにく、解剖学教室が新棟への引越の最中であり、時間を下さいのことであつた。

一〇月五日に、「解剖学教室図書室」関係の搜索、他大学に転出したOB教授への問い合わせ、森鷗外直系教授への問い合わせを行つた結果、少なくとも「小金井日記」は現在の解剖学教室管理区域内には存在しないとの中間報告があつた。年が改まり、竹田助教授は山梨大学医学部に栄転され、その挨拶状に総合研究博物館医学部門にも見当たらなかつた旨が記されてあつた。

105頁の左端には「(東京府平民入籍届ヲ文部省、内閣、大学等工出ス)」という不思議な文章が書かれている。「小金井日記」の特徴は、貞末尾と貞初頭を空欄とし、頁数を打つてあること

見したところ、全く予想だにしなかつた記述があり、驚いた。

星新一による平仮名の日記抄が先に出版されたが、長谷川は星の資料にもとづき原文通り片仮名交じりの日記抄を発表している。「十月五

日 金 晴／午後築地二到」と長谷川の文献にあるのに、星新一の作品には一〇月五日の記述は省略されていて、四日から一二日に記事はとんでいる。ところが、複写原本には、長谷川の論考にもない次のような記述があつた。

「十月五日 金 晴／朝出勤掛ニ原家ヲ見舞フ 午後築地二到、軍医学舎一件アリ」

前半は、無関係の文章であろうが、後半の「軍医学舎一件アリ」は重要な文章である。鷗外に関する一件があつて、築地に行つたと読むことができる。

小金井良夫氏のお許しを得て、小金井日記・明治二十二年乙の105頁と106頁を図に示す。図から明らかのように「午後築地二到、軍医学舎一件アリ」の部分は字体が小さく、限られたスペースに後から書き込まれていると考えてよい。文章としては不完全であるが、重要な出来事をメモとして書き残したものであると判断した。

105頁の左端には「(東京府平民入籍届ヲ文部省、内閣、大学等工出ス)」という不思議な文章が書かれている。「小金井日記」の特徴は、貞末尾と貞初頭を空欄とし、頁数を打つてあること

105頁では空欄であるべき場所に「」付きの文章がある。それも後から書き込んだと考えれば矛盾は生じない。「午後築地二到、軍医学舍一件アリ」と同様に、字の大きさもやや小さめで五日の書き込みに類似している。十月四日の「午十二時……手紙ヲ持參ス」「事敗ル、……來訪」という文章を貢はをさんで続けて書き、後になつて、その間にある貢用空白欄に五日の出来事を書き込んだと考えれば納得できる。

四日と五日の記事は、エリーゼとの帰国交渉に
関するものであり、喜美子に関する「入籍届」
であるとは考えにくい。もし、「軍医学舎一件
アリ」と「東京府平民入籍届」とが結びつくと
考えると、入籍届はエリーゼの可能性が一気に
高くなる。小金井の勤務先の東京大学だけでは
なく、文部省、内閣等という上級機関に提出す
るという記事も納得できるものになる。

二〇〇五年四月

- (3) 星 新一：『祖父・小金井良精の記』、
河出書房新社、河出文庫版（上）、二三
五）三四四頁、二〇〇四年六月

(4) 長谷川泉・エリス「事件の独逸婦人」、

(5) 文京区立鷗外記念本郷図書館・「森鷗外
【鷗外】第一五号、一九七四年一月

〇〇一年三月

十月三十日 水 情歸

今南朝主張爲之。但本來不被信服。因北
面言官如張約、王均、徐和等見舞
牛作戲。都言是東家以三牲而行之。
愧伏。本政事主許所主。東家事。皆一法。豈
子之子。此子孫也。

十月四日 太 晴 晴

106
第貳卷

朝出郭掛一簾客見驚呼
牛馬牽到軍医至一件了

そのような解釈が無理だとすると、鷗外に関する「一件」が前頁にある空白の書込を指していると考えると、記事は完結したものになる。

引用文献

- (1) 小平克：「森鷗外論」「エリーゼ来日事件」の隠された真相」、とうふう、二〇〇五年四月
(2) 林尚孝：「仮面の人・森鷗外」「エリーゼ来日」三日間の謎」、同時社、

図2 小金井日記
明治二十一年乙106頁

図1 小金井日記
明治二十一年乙105頁

『事務局から』

一九年度の記念会の活動が始まりました。
どうぞ宜しくお願ひいたします。

『鷗外』80号は長谷川泉前理事長追悼記念号として発行されました。発行後、あちこちから高い評価の声が事務局に聞こえています。それをきっかけにいくつかの大学から『鷗外』誌を定期的に購入したいとの申し込みが続いております。現在、81号の発行作業が進められています。七月中にはお届けする予定です。

会員の方の活躍を伝えるニュースも届いています。富山大学金子幸代教授のゼミにおいて、脚本・演出・配役など全て学生の手による『鷗外』生田川』が上演され、地元の新聞に大きく取り上げられました。渡辺保幸氏が、東京銀座七丁目の源吉兆庵八階ギャラリーで、長年の取材活動や古書肆などを通じて集められた漱石、鷗外を初めとする、文豪たちの貴重な資料の展示会は多くの人々を集めました。

講演会や出版など会員の方の活動を通信紙においてできるだけ紹介したいと考えておりますので、どうぞお知らせください。

〈新入会員〉

林 尚孝氏(千葉県在住)
城 良子氏(東京都在住)
高橋修司氏(東京都在住)
角谷有一氏(京都市在住)

△総会の御知らせ△

森鷗外記念会総会が開催されます。
総会後の講演会もあわせて多くの方々
の来室をお待ちしております。

五月二十日(日)一時
文京区立本郷図書館鷗外記念室

*出欠席を同封の返信用葉書で必ず

お知らせください。

△鷗外忌のお知らせ△

第八六回鷗外忌記念集会御案内

七月九日(月曜日)午後二時より

三鷹市禪林寺 会費 1000円

*交通：中央線三鷹駅下車、南口発バス八幡前
下車、前方を左折して左側

*参加御希望の方は、総会出欠席返信用葉書
の鷗外忌参加希望の欄に記入ください。

献花式(二時より) 文学座談会(三時より)

【鷗外】通信 原稿募集

▽『鷗外』82号の原稿募集△

『鷗外』81号はたまに編集中です。七月下旬に発行予定です。鷗外82号は来年の一月に発行予定です。原稿を募集いたします。

八月末までに事務局までお届けください。

*『鷗外』投稿規程

*森鷗外記念会会員であること

○四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚(字数

一六〇〇〇字)程度であること

○採否は編集委員会に任すること

▽『通信』五九(夏)号原稿募集△

「通信」五九号は七月末に発行予定で

すので、遅くとも六月中旬までにお届けください。字数三千字程度であれば短いものでもけつこうです。

〈平成一九年度記念室スタッフ紹介〉

森鷗外記念会事務局長 倉本幸弘

鷗外記念室室長 下條純子

記念会事務局職員 岩崎木蘭

記念会事務局職員 岩佐春奈

水出和美

*これまで四人であった記念室に展示・資料整理の担当として水出和美が新しく加わりました。どうぞ宜しくお願ひいたします。

森鷗外記念会通信	
発行年	平成十九年四月三十日
編集責任者	倉本幸弘
発行所	森鷗外記念会
郵便番号	113-1003
電話	03-5834-1056
振替口座	001-601-1161644